ISSN 0288-1748　2017（平成29）年9月20日発行

大学時報

UNIVERSITY CURRENT REVIEW

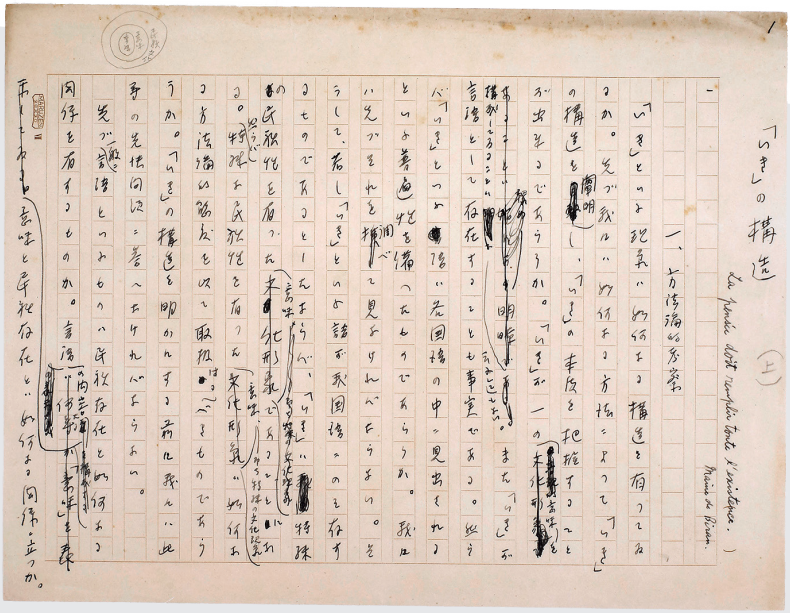
No.376
2017
9
隔月刊

学習院目白キャンパス正門（学習院大学）

特集　学生の学修時間確保の現状と課題

座談会　就職採用活動の日程と大学教育の現状を考える
小特集　私立大学研究ブランディング事業
明日への試み　京都産業大学
わが大学史の一場面　久留米大学
加盟校の幸福度ランキングアップ　中京大学／実践女子大学／甲南大学
クローズアップ・インタビュー　箏曲演奏家　野村倫子さん

日本私立大学連盟



『「いき」の構造』の自筆原稿

京都山科の旧邸宅から移設した道標と日時計

「人間力」を育む伝統の教育
目白の杜の「知」のコミュニティで
多様性の中に学び、世界へと躍進する

学習院大学の歴史は、1847年（弘化4年）に京都御所日ノ御門前に開講された
公家の教育機関、学習院にまで遡ります。
その長い歴史の中でも、創立当初から一貫して守られているのが、学生の個性を育み、
国際的な視野の広さを養う質の高い教育です。
現在も少人数制によるきめ細かな教育を通じて、
「思考」「表現」といった、いつの時代にも求められる「人間力」の育成を追求しています。
「就職に強い大学」として定評がある学習院大学では、キャリア・就職支援面でも、
こうした力の育成に向けた多彩なプログラムを展開しており、
27年間続く名物「面接対策セミナー」は卒業生の強い母校愛が原動力となっています。
目白の杜の知のコミュニティには、多様性の中で協働することを学び、
世界へと躍進するための4年間があります。

学習院大学
GAKUSHUIN UNIVERSITY

国際社会科学部

学習院大学は、平成28年4月に52年ぶりの新設学部となる国際社会科学部を開設しました。
本学部は、語学教育と専門教育を通じて、グローバルに活躍する人材の育成を目指します。

世界中の人と対等に渡り合い、国際的なビジネスの第一線で活躍できる人になってほしい。

大学での貴重な4年間を「なんとなく国際人」になるために費やすのではなく、「ビジネスの第一線で活躍できる国際人」として羽ばたくために。そんなポリシーを持って、3つの柱を準備しました。

- 課題発見・解決力
- 英語と専門科目（社会科学）を同時に学習するカリキュラム
- 4週間以上の海外研修

世界の現場を知り尽くした教授陣と呼ばれる理由

全専任教員18名のうち、「外国籍の教員、外国で3年以上教育研究歴のある教員、外国の大学で学位を取得した日本人教員」などの割合が、94.4%に達します。この教授陣だからこそ、まじめに世界を目指せる環境が、ここにはあります。

目白の緑豊かなキャンパスで学ぶ、学習院大学の5学部17学科。
ワンキャンパス、少人数制教育だから、学生と教授陣の距離が近く保たれ、
充実した環境で学ぶことができます。

法学部

- 法学科
- 政治学科

経済学部

- 経済学科
- 経営学科

文学部

- 哲学科
- 史学科
- 日本語日本文学科
- 英語英米文化学科
- ドイツ語圏文化学科
- フランス語圏文化学科
- 心理学科
- 教育学科

理学部

- 物理学科
- 化学科
- 数学科
- 生命科学科

国際社会科学部

- 国際社会科学科

2018（平成30）年度入試より
学習院大学の一般入試が変わります!

学習院大学では、以下のとおり従来の試験日（コア試験と呼びます）に加えて、
別の学部の試験日にも受験できる試験日（プラス試験と呼びます）を設けます。
それにより、全学部とも受験機会が2回に拡大します。

コア試験 従来型

従来実施していた一般入試を指します。
2017（平成29）年度一般入試までと同様に実施します。

プラス試験 NEW

他学部のコア試験日に実施する、
2018（平成30）年2月の一般入試よりスタートする試験です。

プラス試験のメリット

法学部・経済学部・理学部

ほぼ同じ科目でコア試験・プラス試験の両方を受験することができるため、同じ学部を2回受験することが可能になります。
また、理学部数学科のプラス試験では「理科」の試験を実施せず、「数学」・「英語」の2科目での受験が可能です。

文学部（心理学科・教育学科）

プラス試験は「数学」・「英語」・「理科」の3科目となり、理系科目の勉強をしてきた方にチャンスが開かれます。
※文学部の哲学科、史学科、日本語日本文学科、英語英米文化学科、ドイツ語圏文化学科、フランス語圏文化学科はプラス試験を実施しません。

国際社会科学部

所定の英語資格・検定試験（4技能）の成績を提出することで、国際社会科学部のプラス試験が受験可能になります。
なお、プラス試験の「英語」は、外部の英語資格・検定試験（4技能）の成績を得点に換算するため、筆記試験は受験不要です。

2018（平成30）年度 学部一般入学試験対応 入学前予約型給付奨学金

対象地域：全国の高等学校1都3県（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）を除く

目白の杜奨学金

本学への入学を希望する学業成績および人物ともに優秀で、経済的支援が必要な方を対象とした給付奨学金です。

給付金額	100万円（入学年度に限り給付）
採用候補者数	100名
成績基準	評定平均値3.8以上
家計基準	あり
申請期間	2017（平成29）年11月1日（水）～ 2018（平成30）年1月27日（土）

学習院桜友会ふるさと給付奨学金

学習院卒業生の同窓会組織である一般社団法人学習院桜友会からの寄付による、返還義務のない給付奨学金です。

給付金額	50万円（4年間継続給付）
採用候補者数	10名
成績基準	評定平均値4.0以上
家計基準	なし
申請期間	2017（平成29）年11月1日（水）～ 2018（平成30）年1月27日（土）

＊「目白の杜奨学金」と「学習院桜友会ふるさと給付奨学金」は重複申請不可
詳しくは、HPへ情報掲載中！ http://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/scholarship/

ラーニング・サポートセンターを開設しました。

学びやすく成長を実感できる学生の学習環境の整備を目指し、
2016（平成28）年6月に開設しました。
学習に関する各種相談、ライティングサポート、プレゼンテーション技法の向上、
グループ学習のコーディネート等、学生の学びを支援します。

ライティングサポート
基本的な論文・レポート（英文を含む）の書き方、ルール、マナー等

プレゼンテーションサポート
プレゼンテーション資料の作り方、発表リハーサル、質問の仕方等

文献検索支援
レポートや発表をするための参考文献の見つけ方等

キャンパス紹介

豊かな緑の中に最新設備と歴史的建造物が共存する美しいキャンパスが自慢です。
約18万m²もの広大なキャンパスは豊島区3大緑地の一つといわれ、四季折々の風景が楽しめます。
また、4年間ひとつのキャンパスに通えることも学習院大学の魅力です。

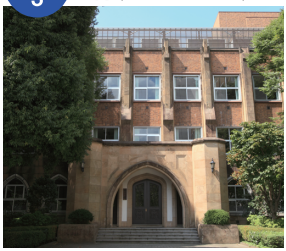
POINT 1 都心の1キャンパス

4年間を通じて同じ場所で学ぶことで、気づけば誰もが顔見知りになっているような、アットホームなワンキャンパスです。都心の快適な環境で送る学生生活がもたらす可能性は無限大です。

POINT 2 目白駅から徒歩30秒

JR山手線の目白駅から徒歩30秒という抜群のロケーション。池袋へ2分、新宿へ6分と都心のターミナル駅にもアクセスしやすく、課外活動やアルバイトに出かけるにも便利な立地です。

POINT 3 国登録有形文化財7件（2017年3月現在）



2009（平成21）年3月に学習院の建造物7件が国登録有形文化財として登録されました。建造物は、現在でも博物館、教室、また課外活動の場として使用されています。

学習院大学
GAKUSHUIN UNIVERSITY

［お問い合わせ先］学長室広報センター
TEL.03-5992-1008　〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
http://www.univ.gakushuin.ac.jp/

大学時報

No.376　2017.9

社会に貢献する研究力

井上 寿一●学習院大学長

学習院大学は、文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」に採択されました。研究テーマは、「超高齢化社会への新たなチャレンジ――文理連携型〈生命社会学〉によるアプローチ」です。超高齢化社会を持続的に発展させるにはどうすべきか。自然科学系＋社会科学系＋人文科学系の中規模〈総合〉大学で、オール・イン・ワン〈キャンパス〉の学習院大学が学際的な研究の立場からこの課題に取り組みます。学習院大学は、社会に貢献する研究力の強化を目指します。

不変と進化

髙野 克己
東京農業大学長

はじめに

本学は２０１７年が創立１２６周年目である。１８９１年に、徳川育英会育英黌の農業科として現在のＪＲ総武線飯田橋駅付近で産声を上げた。東京メトロ飯田橋駅Ａ４番出口前に「東京農業大学開校の地」という碑がある。入学は18名の小さな学校であったが、今では東京の世田谷キャンパスを中心に、神奈川県厚木と北海道オホーツクにキャンパスを擁し、学生１万３０００人、卒業生は17万人を数える。

２０１６年の創立１２５周年式典には秋篠宮文仁親王殿下のご臨席を賜り、お祝いのお言葉を頂戴する栄に浴した。殿下には祝賀パーティーにもご臨席を賜り、参加者と親しくご歓談いただいた。このような発展ぶりに、創設者の榎本武揚公はさぞ驚いていると思う。

1　創設者榎本武揚と東京農業大学

さて、創設者の榎本武揚公であるが、多くの方には函館戦争の敗軍の将として記憶されていることと思う。敵将であった黒田清隆が頭を丸め、西郷隆盛に助命嘆願した話は有名だ。榎本公は、幕府の命によるオランダ留学において、蒸気機関学、航海術のほか、化学、鉱物学、冶金学さらに国際法を学び、当時の日本人が想像もしなかったグローバルな国際

社会の姿を目にしたであろう。
欧米列強がひしめく不安定な東アジアにおいて、わが国の独立と発展のため、ロシアと千島樺太交換条約を締結（１８７５年）するほか、逓信、文部、外務、農商務省大臣の重責を任されたのである。また、榎本公は経験により得た知識や見識により、当時は誰も試みることがなかった石けんや焼酎の製法などを研究して製造することや、温泉の地熱を利用した温室を考案するなど、武士、政治家、外交官であるとともに科学者でもあった。さらに、東京地学協会の設立に関わり、工業化学会（現在の日本化学会）、気象学会の初代会長に就任するほか、わが国初の近代製鉄所である官営八幡製鉄所の建設を推し進め、またわが国で初めての公害事件である足尾銅山鉱毒事件について、横井時敬本学初代学長と共にその問題の解決に尽力した。
榎本公は、自ら考え科学的に実証するという「実学」を重んじ、目指す先に「日本の物質的利益の増進」を常に考え、将来の産業発展に先進的科学技術、特に「農業」の発展が近代国家の建設に極めて重要であると考え、本学を創設したのである。

２　経営危機を救った横井時敬初代学長

しかし、学校経営は困難を極めたため、１８９３年には徳川育英会から独立し、私立東京農学校となった。その後、大日本農会の支援を受け、大日本農会附属私立東京農学校、大日本農会附属東京高等農学校を経て、１９０３年の専門学校令による東京農業大学へ改組し、１９２５年に大学令による東京農業大学となった。
榎本公の要請を受けて小さな農学校の経営危機を救い、いまの東京農業大学の礎を確固たるものにしたのは、育英会の評議員でわが国近代農学の第一人者であった東京帝国大学教授の横井時敬先生である。横井先生は、多くの反対がある中、「農学は実学なり」との自論から、「農学」は真に農業と関連産業の発展に寄与するものでなくてはならないと説いた。地域や産業のリーダーの育成を主張し、農業後継者の育成に対する私学である本学の必要性を説き、東京高等農学校（本学）を附属機関とする大日本農会を説得した。この思いは、本学の建学の精神「人物を畑に還す」に受け継がれているものである。先生

は1911年から1927年まで、東京農業大学長として日本最初の私立農学校を大学に昇格させるなど、農業教育の発展に尽力、時代の当面するさまざまな問題を学問的裏付けに基づいて論じた。「稲のことは稲に聞け、農業のことは農民に聞け」の言葉は、本学の教育研究理念「実学主義」として引き継がれている。また、「農学栄えて農業滅ぶ」の言葉は、学問の方向性に対する警句として本学の教育研究を見続けている。

なお、現在、国公私立あわせて60の農学系大学があるが、1943年まで、「農学博士」の学位授与は東京帝国大学、北海道帝国大学、京都帝国大学、九州帝国大学と東京農業大学のみであり、本学は私立で唯一「農学博士」の学位授与を行っていた。

3　農の進化

人類の叡智により自然の恵みを享受し、現代は高度に複雑化した社会に発展している。一方では、地球規模の気候変動に伴う環境変化と自然災害の増加、人口増加による食料危機、水不足、生活環境の悪化、経済格差の拡大など、地球と、そこに生きる多様な生物や人類の生存を脅かす課題に直面している。これらは、人類の生存にかかわる幅広い農学領域であり、東京農大は社会をしっかりと見据え、社会と人々の期待に応えるべく、農の領域を生命・食料・環境・健康・エネルギー・地域創成に拡大し、これらの課題解決が本学の使命でもあると考えている。この使命を果たすのは、未来を創る学生である。わが東京農大の教職員は、「全ては学生の未来のために」との言葉を胸に、「生命（いのち）」にかかわる学問を学ぶ東京農大生に、「農のこころ」を育み「生きるを支える」教育研究を実践している。

東京農大には「不変」のものがある。それは、創立当初から教育研究の理念として貫かれてきた「実学主義」である。実学主義とは、先入観に捉われたり観念論に陥ったりせず、「あるがままを学ぶこと」である。自然界に目を向ければ、そこには人知を超えた摂理があり、多くの生命の犠牲の上に成り立ち、人間の命もその一環である。初代学長横井時敬が残した「農学栄えて、農業滅ぶ」という警句も、大切にしていきたい。農の進化は、人類の幸せに寄与するものでなければならないと信じるからである。

4　東京農業大学から東京農大、そしてTOKYO NODAIへ

東京農大では、先に述べた農学領域の拡大を先取りし、1989年に北海道オホーツクキャンパス（網走市）を開設し、生物産業学部を設置。1998年に、農学部から応用生物科学部（バイオサイエンス学科、生物応用化学科、醸造科学科、栄養科学科）、地域環境科学部（森林総合科学科、生産環境工学科、造園科学科）、国際食料情報学部（国際農業開発学科、食料環境経済学科、国際バイオビジネス学科）を分離し、さらに農学部を神奈川県の厚木キャンパスに移動し、世田谷、厚木、北海道オホーツクの3キャンパス体制となった。2006年に農学部にバイオセラピー学科、生物産業学部にアクアバイオ学科、2014年には応用生物科学部に食品安全健康学科を新設した。

2017年4月にはバイオサイエンス学科、分子生命化学科、分子微生物学科からなる生命科学部を設置するとともに、地域環境科学部に地域創成科学科、国際食料情報学部に国際食農科学科を設置した。さらに、2018年4月には農学部に生物資源開発学科とデザイン農学科を設置する予定である。北海道の生物産業学部は、北方圏農学科、海洋水産学科、食香粧化学科、自然資源経営学科と、4学科それぞれの特徴を打ち出した名称変更である。このように東京農大は、1988年から30年にわたり、戦略的に農の領域拡大と農の進化を進める改組を行ってきたのである。

東京農大の教育研究の場は、北は北海道の寒冷地農場から南は沖縄県の宮古亜熱帯農場、温帯は神奈川県の伊勢原農場、北緯44度から24度の約2000キロに及ぶ地域の農業をカバーしている。また、世界の農と連携を図るため、海外35カ国38大学と協定を締結し、海外からの留学生は38カ国、300人に及ぶ。わが大学は海外ではTOKYO NODAIあるいはNODAIの愛称で呼ばれている。

国内では地域、産業界との連携を積極的に進め、教育研究の成果を地域と産業界を通じて展開することを積極的に行っている。農に関する産業は地域を元気にする。地域を元気にできるのが東京農大なのである。